

万國郵政聯合會上場，郵票

No. 7 1959. 2.10  $\pi$ . 花旗主教鷦鷯

（略）春斗の現状は、軍需調査局反対、一律、  
主張の決定、開業率の非合法口会下モ互に一方を動員  
シユールも決定され、労働組合は春斗に入つていい  
る。田共に支援される民衆の完全な主導権の下に  
進んでいるこの春斗に対して、我々は、真に階級  
的方針を対置し、それを労働者の中に持込み、  
彼らの理性と仁性を、春斗を通して労働者の中へ  
導入せねばならない。

春斗の現状と我々の任務について以下、簡単に  
のべよう。（同盟幹闘紙「共産主義」オ一號、坂  
田謙著「春斗における革命的労働者の任務」を參  
照）

## 春斗の現状（二の項特に①②は、

社青方員青年労働者特別号参照互みよ。）

（一）論、評の方針と指導

（二）統一評の春斗の基本方針は十二月五日の七回幹  
事会で決定され、此后、その方針が主要産業全部  
の方針の基礎となつてゐる。これについては、すこ  
く多くの所で書かれているが簡単に言うと次の  
通りである。春斗と、生活要求と高次の政治要求  
とを結合した、「統一労働者と経営者の対決とする、ど  
う評価で、目標とは、貸上げ、賃金制、安保施  
策、公取法再提出、岸打倒、日中口交回復か  
ら農業全管の右上、一九四〇近い裏水を取

「四月下旬から三田上旬にかけては、『新日本』の主導にて、全連盟の  
この方針の幹事会議決を以て、本連盟は、その主導にて、全連盟の  
主張」を発表、「赤手の競争を以て競争的闘争をめざす」として、「四月一日  
斗争は総合的に一争くに斗つて争う」として、「……競争化は競争に対する  
斗争は、農民、平民を主導する」、「……民衆なりに争争たるには大し  
かえない」と、「この統率高揚する」、「公表される前から主導していった、  
しかし、無意味な「總大物」の總決済の解決が、實際には合理化反  
対を中心とする斗争の主要課題を本丸し、選挙にすぐれて、解決す  
るための希望であることは、「春斗に属する統率の悩み」について、「か  
ず声だけは勇ましく」「……大中賣上げは可能である」と呼号していく  
が、實際には各組合幹部自体が確信を持ちえず逃げ廻になってしま  
る（田經連タイムス、「二」と語るアンドロアジーの方が良く知ってい  
いたであろう）。「これらについては後半するが、七回幹事会は反主流派  
の金屬局から「合理化斗争も主要斗争目標にしろ」という要求が出  
されたが、結局常幹の方針のワクに收められてしまった。

一日十日、総評と中央連盟代表が春斗共斗季を用いて、具体的戦  
術を決定した。即ち「四月下旬から三月上旬をやまととして、全連盟  
が一の期間に斗つて争うを集中する『總からみ方式』で斗つ、十四日には  
春斗決闘大会を全口一斉に開く。」、「二五をオ一波とする。」（）の  
後、二五日には農労、全鉄、会社、全鐵道、□際電々が二四時四八  
人を行つて二回決闘されてもいる。（東に「ハ」）

春斗の現状（この項特に①②は、  
社会主義青年党中央特別号にみよ。）

（一）総評の方針と指導

（二）論評の春斗の基本方針は十二月五日の七回幹事会で決定され、此后、その方針が主要事業全部の方針の基礎となつてゐる。これについてほすてによくの所で述べてゐるが簡単に言うと次の通りである。春斗を、生活要求と高次の政治要求とを結合した「統一化と標準化の対決とする」という評価で、目標には、復上り、最算制、安保施設、公私法再制定、岸打倒、日中二交回復から農業全営の向上、四十近い要求を盛りこ

(2) (iii) 以後開かれた単産中央委については後述するが、総評のその後の方針についての問題点をのべておくと、オ一は最賃制である。政府提出の業者協定による最賃制反対、社会党案・十八オ一一律八〇〇円支持は、総評の斗争目標として、すでに一年前から出されていた。今度の四五では後述する現在の結果でのアレンジメントの改善の中でも一つの重要なとして最賃法が強行されるのだが、これに対して一月二一日、院内の最高制八人委員会(社会党四、総評、全労、新産別、中立各代表)は、全産業にわたる最低賃金を決めた上で、業種別、取業別、地域別最低賃金を定めるところ修正案をだすことと決定した。

四日から政府案は審議に入っているが、これは、これまでの大針の変更、無原則な妥協として、大きな小んげきを下部がつぶさおとしている。四日、東京地評は、この案に反対の声明を発し、六日には国会下院を總監に組織した。さらに東京地評は「總評の方針を明確にせよ」と要求しており、その意味で總評と妥協しているが、大阪・兵庫地評では總評に抗議する声明を発表している。十日、南東地評アロソク会計委員会の七大都市評会計では、これが大きく問題とされる見通しがある。全金、全印、全印給連もまた抗議を行っている。民同左派指導部のあまりに過激な主張的、協調主義の方針は、労働者に總評の日和見主義的。

#### （4）「總評の統合を与えて」

オ一は「戦線統一」問題、即ち總評と全労との話し合いで、十日の全労大会の戦線統一のよびかけを、当面の行動統一を目標として總評は受け入れて、二五日、最初の統一懇談会が、十七単産・六十名をもってひらかれた。四日、東京地評は、「この案に反対の声明を發し、六日には国会下院を總監に組織した。さらに東京地評は「總評の方針を明確にせよ」と要求しており、その意味で總評と妥協しているが、大阪・兵庫地評では總評に抗議する声明を発表している。十日、南東地評アロソク会計委員会の七大都市評会計では、これが大きく問題とされる見通しがある。全金、全印、全印給連もまた抗議を行っている。民同左派指導部のあまりに過激な主張的、協調主義の方針は、労働者に總評の日和見主義的。

（いれづりでは「青年労働者「特別会議」」を参照）  
十三日の戦労の中央委員会から、三十日の自治労の代表者会議まで一回に開かれた主要単産の中央委員会は、どれも低調であり、活動は討論の行われた所は抱めないが、主たる単産の中央委員会について(いくつか述べよう)。

(i) 日労——戦労の中でも電通と並んで合理化五ヶ年計画の大攻勢をうけている日労の中央委員会は、特に合理化斗争の進展として志

兵庫労連の民間払い下げ反対斗争が行われてあり、管理所の設置(独立採算制がとられる)がはじめられる中で開かれたのだが、五千五百円アロス七分、初仕給九二〇の賃金要求をあただけで、志英について(いわく)方針が決ったのみ、討論は低調。

(ii) 鉄道——日鉄組を除けば、民同幹部に対する抵制がもつともすばしく行われた鐵道の中央委員会は、オ一次合理化五年計画の二年目を迎えるようにして(い)る中で、昨年末の津の露頭局の合理化反対斗争の経験の後に開かれ、三日についたる相当けいじ論争が行われた。論争の焦点は、津の斗争の評価をめぐってである。この斗争は津露頭局の合理化にもとづく「駆逐」の後、駆逐前に組合がかつて体ナイト時商の延長などの権利を公社が拒否してきたのに対し、徹底的な取扱いとして示された。そしてこの斗争の矢頭に立つた活動家三名が首を切られることになった。首にかかるまでは局だけの斗争として全国に知らされ、首が切れてはじめて全國から津に代表者くることになつたが

(2)

直轄に「統一」の話し合いが發展する「ことばなし」としても、總評の右傾化の一つの補強材料となりうるものであり、全労が「反共・反階級性の原則」の上に立つて統一をもう出しているのに、總評が原則なしで、共斗をいうとき、それは實際には總評への全労の圧力を増大させるところになるのである。

## 2 十二月、単産の方針とその会議

結局、全団代表者会計が開かれたにとどまった。この代表者会計(まだ)は、大本部では津斗争は全体をかんがえなくハネ上り斗争だからと何度も二回に開かれていた。

このことが最大の論争だったが、左派派が「中央は、あの方針ではなく、大針を立つべきであつて」というように抗議を展開できず、中央の方針が充分さとか津はハネ上りではなかつた、といふようにしか出でないので、結局中央にも教育活動などの不充分さがあつたとつまうにさめられてしまった。一五〇〇円アロス六分の賃上要求に、合理化に(い)ては各取場で十元といつ方針を認めた。

(iii) 鉄連——日本の労働組合の中でもっとも戦斗的な部隊になつてゐる労連の中央委員会も決して討論をめざさず、一方八〇円の賃上げが春斗要求であるが、討論は年末斗争におけるロソクアーツを缺つての強行、就労に脇落者がでたのにに対する批判、企業が今本当に赤字のとき、どう斗争かという質問、戦労の総評の中での「復走」についての批判をめざして、主に行われた。

その後、十九日三井鉄山で再建策が出され、これに対して三鉄連、三井鉄連(三井労組組合)が斗争体制をつくりつつ、五日から因縁を開始している。一方、明治鉄業では希望退職五八〇名が、五日発表され、六日明治鉄連のスト体制用意を表明は指示した。正式の方針は十日に決定される。

(iv) 鉄連——昨年の十一波の統一斗争を組みながら、四回回数を打ち破れず、その後大二次年計画による合理化が全面的にすすめられてる鉄連は臨時大会を開いた。

平均一〇〇〇円と三〇万退職金が春斗要求として決定されたが、向題になつた渠は、合理化斗争についての方針と、産業別統一斗争について(これはハセガウの反対があつたが、票決で決定)などである。二十二日の奥力行使から斗争に入る。

(v) 私鉄——昨年の春斗の「トップバッター」だった私鉄の中央委は、初めて低調で、昨年の統一斗争方針をとらず、ス統一要求すらもだない。個別交渉方式で妥結は委員長(私鉄鉄連の)权限とつて方針が決定されたが、基準をもたずにどこで妥結をきめるかとつて批判があつた。

(vi) 紙パ——一月下旬に臨時大会を開くが、最低保障一万、基本給二千円、交替制を三交清制へ、臨時工を本工へとつて方向で中止、スト权委譲でアロソク別交渉へ、各社別々交渉せず、アロソクなどにまとめて各社と紙パが交渉する。

同時に王子の彈圧に十四日、二十五日に産業別統一斗争を組むて時隔スト)。

以上が總評で、中立だけ

(vii) 全造船——鉄鋼と同じく、昨年の田波の統一斗争を行い、八〇〇円以上となることができなかつた全造船は、今度の春斗では二千円の要求を提出。この中央委では二〇〇〇円に定期昇給を含ませるか否かで激論を行い、一日討議を延長、結局小差で含めないことに決定、さら

にスト权の中央移譲をめぐって(結論——賛成)投票スト決議をめぐつて(否決)討論された。

しかし全造船加盟の日立造船では、中央委の前に千二四〇円アロス八百円の要求をえている。

(viii) 香料労連——もつとももうかつて(いる企業)だから賃上げがどれ

だらうと(い)う判断から、總評が今度の春斗の柱の一つにえり、だ

香料労連は、勿論もうかつて(いるから)とつて組合がとくにつよくな

つて(いる)訳ではなく、基準内賃金十以上(含定期昇給)と年令別賃金保

障の賃金率を基づき、三・三五に最大の実力行使をめざすこととされ、

全体の斗争の一つとはけなれてスケジュールを立てた。

(ix) 日鉄組——神奈川方式をめぐつて深刻な内部斗争を行つてゐる日

会が一日のばくれて二十日になり、結局何をめぐるか大会にもつても

ことになつたが、總評は勿論、日共も含めた(後述)全成線から独立して

していると自分感じとつて(いる)基連派は、しかしながら大会では總評

かつて(いる)が、これまでの大会の基連がう大会では總評

なり。神奈川方式の評価をうめる大会は、日鉄組の今后にとつて死活

(3)

### ③ 批判的潮流

以上の統計主流の大針に対する批判勢力の反針はどうか。既に統計及び学産中央委の現状からも分かる様に、一貫にしていえども、

資本主義には反王流派にせよ代々木にせよ相場は大針を打つことない。國元・毛道をはじめとする各業界に於て労働者大衆がアルジョアラーの争議・糾難が合理化され、時に合理化——に直面してあり、実際に、取扱で重大な争議が起つてゐるにも拘らず、これに応える何らの階級的斗争的行動がないため、總ての不満の繰り言に終つていいのである。

二、三、一、志出されていき見解について述べておこう。

反王流派・金井が總裁辞職会で合理化反対三争を主張題とせしと主張したこととは前述した。反王流派は合理化反対者階級に恭順を示すと手を取れていることを正しくうろこい様見ゆる。しかしその問題提起の仕方は、これを最善法と共に目標にし、そして最善法を統一行動の力ナメであると主張する。(産業分析一月号)、「春斗の最善にあたって」(全金・近竹組合部長)として戰術については、社共然一戦線とせばストを主な戦題とする。

二の方針は少くとも春斗では、大眾をどうえて一つの力となる事は出来なかつた。これが二つ、一つは「春斗の最善」、二つは「

- 6 -

労農主義に賃銀斗争に注意を提起して、(1)日立連合一月二〇日(1)の田代  
わが田主切手空きの現状と「銀金指揮」を發表、(2)不本意によつて供給した  
糞便、資本積累を回復せねばならぬ。(2) 大企業と中小企業との差  
差の是正のために大企業の質上をもおさえ、中本企業の生産性をあ  
ねばならぬ。(3) 輸出オーナー主義は不變、(4) 不法で賣主は上つてし  
しが生産は下へんむつてしる。(5) 現在の年定しに耕種扶助やは  
べ、アマロロイド農業にあづかひて、株に賃銀切り離しの理論を宣  
した。

五十嵐政部長は、大野として春斗は、盛り上りの条件を欠いてい  
る。しかし労組の態度は、依然勢から高姿勢にわたりつゝあるし、そ  
れの裏面に、大野の態度は、このままでは、(1)賃銀斗争の現状から(2)不  
本意によつて供給した糞便、(3)資本積累を回復せねばならぬ。(4)大企  
業と中小企業との差の是正のために大企業の質上をもおさえ、中本企  
業の生産性をあげねばならぬ。(5)輸出オーナー主義は不變、(6)不法で賣  
主は上つてしが生産は下へんむつてしる。(7)現在の年定しに耕種扶助やは  
べ、アマロロイド農業にあづかひて、株に賃銀切り離しの理論を宣  
した。

の財團の生原斗争に、これがアーリーのアドバイスである。アルジニアーの善手方針は、全体として實上より最低限に押さえ定期預金引出しを減らすために、マサニエーの因縁で、シカゴの河川のものが、

## 現実的なる見通と店頭

二の方針は、政府の財政的・財政的方針に於ける  
当田会の政府のオーナーの重実は、四千億の財政投融資を中心とした  
子会社を設立させねばこうであるが、この重実として公されたとして  
最も便益は、極めて効率化努力・至極下でしばしは清修な斗争をくり  
返しており、しかも終評の組織をはじめとする中大企業の勞働者と  
大マルジニアジーカ政治的といひつけるものとして公されてゐる。  
又同じ目標の志業として「中小企業復興金(有志業)」(勞働者の積  
立金と田舎者助によって中大企業労働者の復興金を出す)も提出。  
三、政府は、現在は、二の如くに正面からの攻撃を当田会をばかり  
なり。マルジニアジーカ政治的の合理化がどうであるか一定の反  
映する決議案は意欲をもつて争を行ひなひでいる。  
しかし逆説但、今秋から春にかけては、必然の政治的にも至る所で  
も正面攻撃は不間違である。

舊臨時政府によつて行なはれたソシエテ大會が開かれて、その開催地の首腦級の士紳の発議によつて改憲の運動が起り、且年頭改憲の支持の少ナルの御高達などにむけだめに専たに対する反主張の一あはれが波瀾であった。但改憲運動は、現在ではまだ余る一たの發達をえたもので日本政府もおもむく対応せねば、必ずしも實質的改憲の政局をアロレカシマーにてこむわづかうと思われる。もしろ日本國が公然と中國に對て新式の本權力のアロレカシマーへの進歩反眞による改憲を企てん。

1) すでに昨年十一月の廬崎義三と泰年の書のマースアーヴには「わにされとは忙じかねり」(前田等々理學教説)と極度を用ひかんじ

えで「新しさ」にこだわる。即ち国際化をめざす国際化」になつてゐる。

ハムと並んで、その国際化に躍進する企業は、ソーランツのほか、ロッカードが破れるが、依然として、既存の「保守的・伝統的」の意識内に解消されはかれ、「ブルジョアジー」が期待する新時代の結果が、最初の余波との役割であり、余波の影響への懼れから多様化との他のいくつかの要素が混在する挙動であることは間違はず。

従って組合の階級性とがスルの手の中で、ひんにかけられていふ。この方針は一概的であつう。田至謹の「看守に対する基本的態度」（「看守に対するペナル」）は也へ。「われわれははじめて最高の成績向上をしてしむものではない。……しかしあくに政府計画があつて、その実現、産業構造の改良などには、その意味はあり大い

そしてこのへ縁が切れない。  
松葉さはすとて去年七月廿二日〇〇〇田黒木だ一〇七〇円(高麗年)  
で安藤の譜がつゝ、うなづく時がある。二の譜は、田立高麗の一  
三〇〇田アラスハ一〇七〇円(高麗年)とも一致する。

(3) 最優秀斗争について一議論を講じるが、その概要する  
ために補足する。  
最優秀斗争の現状と問題については、1で述べた。  
現在は二つ、即ち農業が最優秀を好む者の階級闘争へひきこも一つの  
材料として出していることなど、これらを暴露せねばならぬ。  
同時に現在おこりつゝある社会的のハニソンの裏切りの結果に対する  
大衆的抗議と社会感と諒解主義のデッティ仰ハバクロの場とし、政  
府の攻撃に対する政治斗争として發展させることは極度の課題である。  
しかし主張者への批判者たる反主流派の方針には、この場合にも批判  
せねばならぬ事がある。  
即ち彼らは、最優秀を主張する者の要求を統一出来るから統一斗争の  
力ナメだ」と唱へてゐる。  
最優秀を運ぶする要素を要素とする斗争が、全労働者大衆の斗争力と  
積極性を認めざめざだらうか?  
資金斗争と積極的に斗争しない評論者が、最優秀要求なら積極性を忽  
視するといつ根拠はどうにあるか?  
「」でも完全に隔離の立場に立たねばならぬ。」などは、至る斗  
争では斗たぬと云ふ意見などの内容を十分に分析することなしに簡  
単に全労働者を統一する政治斗争を探しまわる主張主義があり、しか  
もその設定において最優秀法を議会で実現させて、労働者の生活を保障  
するヒヒの議会主義を達成せざる。  
全労働者を統一する斗争は、最初と「懇親家」の頭の中にではなく、又  
議会のかげひきの中にではなく、選舉のアルシヨンジーの攻撃と労働者  
の苦惱と斗争の中に見出されねばならぬ。  
現実の資本の支配との斗争などござつて、選舉を議会で要求する斗争  
を差すしてや、それは、實に大衆を斗争へ動員し得ず、也に議会に

- 7 -

2 我々の立場 || 春斗方針批判

以上が吾手の発表とおよその眞偽である。  
二つに於いて我々は、父兄の見解を明確に労働大衆の前に示し、我々の思想と方針と勞働者を獲得せねばならぬ。そこで我々の各種の差  
手の立場についての見解を計算する。

(1) 労働組合の指導に階級的視察を費す、

二のことは一般的に重要であるだけなく、また現在、圧力的労働組合  
組合がその指導部の改良主義的指導に委ねられてゐるからだけではなく  
特に曰至連の労働運動に対する大針が前述のように質上かと組合の階  
級的調節権へのべきこみにして同時に遂行されようとしているとき、  
即ちスルジニアジーが一定の物質的な基盤を持ち、完全に階級  
的立場で労働運動に対してもといふ意味で重要である。

質上で要求を年中行事の様に、例年くり返すことによってたなでは、  
決して労働組合の組織を壊ることも、大變のイニシヤチーブを企図  
させつゝ階級意識を昂め、权力獲得へ向つての革命的互聯と程々十二  
とも決してできばつ。

我々は、我々の中にもある労働運動に対する意識主義、あるいは直  
接主義的考え方を完全に克服することが必要である。労働組合を労  
働階級の最も本邦な組織として「労働者階級として組織する」場  
としてどうぞ、その基として至る斗争を置くマルクスの立場を完全

(1) 労働組合の指導に階級的視点を貫け、  
上が書手の本流とおよせの眞理である。  
に於いて我々は、次々の見解を明確に掲げ、大衆の前に示  
思潮と方針を労働者を獲得せねばならぬ。そこで我々の各  
の立場についての見解を計算する。

基本的には、又全体として改良主義によつて指導されてゐる日本の  
労働組合運動の中を、これまたの斗争の中で大衆がその競争性を發揮  
持つたために、多くの努力をなし、斗争形態を創造してゐる。農野の  
合理化反対斗争の中から発見された職場斗争も又その一つである。  
これらは正しく發展させねばならぬ。

マルジナルの労働者階級に対する攻撃の中にどこにあるかと  
正しく、上え、それに付する反対をどう組むかを考えよ。

筆者著者(ら)は、労働組合の運営の困難的経験によつて確立され  
てゐる斗争形態、組織形態をわがものとした、大衆連合のストライ  
キ委員会が作られ解析があり、決然体としての地区労働ではなく、決定  
板をもち、かつ大衆的代表者からなる地区工代会が行なわれてい  
る。二の至髄を音符の中で生かせ。

我々の活動の実験として大至急に一人の労働者を社會勞同に獲得  
せよ。

## (2) 現在の斗争の力と、合理化反対斗争一

1. さて、既に本稿に主要論題が今直面してゐるのは、設備更新を中心と  
する合理化である。合理化が少しづかりの後上手に引かれて、のま  
され柄だし、一方職場で革組とは別分前に斗争があつてはじめてい  
る。

現在、二つの立派なめきにして競斗だけを斗争の本領は大衆、資本家  
階級の立場に立たず斗争对立せんことを要求す。

## (2) 現在の斗争の力、合理化反対斗争――

基本的には、又全体として改良主義によつて指導されてゐる日本の労働組合運動の中も、二これまでの斗争の中で大體がその戦争性を維持するため、多くの努力をし、斗争形態を創造してゐる。農野の合理化反対斗争の中から見えた農場斗争も又その一つである。二れらは正しく發展せねばならぬ。

マルシシャンナーの労働者階級に対する攻撃の中にかどつてあるかと正しく、とえ、それに並んで反対を以つて組むかを考へよ。

筆者法斗(ら)きは、労働組合の運営の國際的生存験によつて確立されてゐる半形態、組合形態をわがものとした、大業連合のストライキ委員会が作られ既成があり、被隸体としての地主寄合なく、決定权をもち、かつ大業前田代表者からなる地区工代会或が行われている。二の至徳を宣すの中で生かせ。

我々の活動の歴史として大至徳に一人の労働者を社會勞同に獲得せよ。

(2) 現在の斗争の力半、合理化反対斗争

1 までのべた様に主要産業が今直面しているのは、設備更新を中心とする合理化である。合理化が少しけりの後上位に引かれて、のまされ柄しかし、一方農場で草組さは部分的に斗争があつてはじめてゐる。

現在、二の斗争をめざにして競斗だけを争つては社会は大變、資本家階級の立場に立つて斗争に立ち向かうことは出来まい。

(3) 最優秀斗争について一議論を講じるが、その概要する  
ために補足する。  
最優秀斗争の現状と問題については、1で述べた。  
現在は二つ、即ち農業が最優秀を好む者の階級闘争へひきこも一つの  
材料として出してしまつてゐることと、もう一つは農業せねばならぬし、  
同時に超おこりつゝある社会的の個人派の裏切りの結果に対する  
大衆的抗議と社会的と經濟主義のデッティ仰ハバクロの勢とし、政  
府の攻撃に対する政治斗争として發展させることは農業の課題である。  
しかし主張への批判者たる反主流派の方針には、この場合にも批判  
せねばならぬ事がある。  
即ち彼らは、農業者を主張する者の要求を統一出来るから統一斗争の  
力ナメだ」と唱つてゐる。  
最優秀を運ぶする要素を要素とする斗争が、全労働者大衆の斗争力と  
積極性を認めざめざだらうか?  
資金斗争と積極的に斗争しない評価者が、最優秀要求なら積極性を発  
揮するといつ根拠はどうにあるか?  
「」でも完全に階級的立場に立たねばならぬ。」などは、至る斗  
争では斗たねばと云ふ意見との内訳を十分に分析することなしに簡  
単に全労働者を統一する政治斗争を探しまわる主張主義があり、しか  
もその設定において最優秀法を議会で実現させて、労働者の生活を保障  
するヒヒの議会主義を達成せざる。  
全労働者を統一する斗争は、最初と「懇親家」の頭の中にではなく、又  
議会のかげひきの中にではなく、選舉のアルシヨンジーの攻撃と労働者  
の苦惱と斗争の中に見出されねばならぬ。  
現実の資本の支配との斗争をとびこなして、選舉を議会で要求する斗争  
を差すが最もが最も問題の争點であるが、それに結びつける。

この改良の幻想を努力しておる結果をも導くであらう。

(4) その他春斗における一二三の問題

実際につれ、一、二の争斗にありて傍観者の中にへつて行く場合、尚ほ三  
の面影についての風向方針の批判、討論をしておこしたるがよからぬ。  
オ一、争斗について、一、二の修正資本主義的政策——雇用の増大、  
資本の増大による国内市場拡大を通じての不況切りぬけ——につれて  
はふれる世論もはじく思つ。そこから物況ならこれなどといふ考えがあつ  
され、好景の部内さうじのノット技術が大眾生活をねぎらしてくまれて  
しる。これと同様に争斗では、配分までの大量需要、賃金工の組織  
に對するの参加、一一のニホンアルシヨアの償還政策の柱石のひから。  
オ二、日米通商改訂につれて、政府は依然資本の帝國主義的軍事力の  
強化、N.E.A.T.の結成への前進に対しても徹底的なバクロを、  
（逐次糾弾反対斗争につれての判決とのべき）

我々の思想と方針を尊重する大衆の前に開かれておる、  
社会的問題解決の中へ組織せん、  
同盟、組織せん、

(1) 革斗における我々の行動の具体的な行動についてのべる。  
我々は、我々の思想と方針をもつてのうすで努力者大義に明らかにせねばならぬ。それにまつて勞付者を獲得せねばはらぬ。そのためには、よりの機会を利用へ一ねばならぬ。特に大きな労付者、斗つて見るところの労働者の手に集めよ、  
脇持辯護を組織じよ。

### (3) 我們的具體的活動

労働者大眾との連携は結合につくべき事、宣伝工作に終りず。  
必ず組織化せよ。  
活潑的青年労働者を公派に社青勞働團に組織労働團に組織せよ  
社青労働團社會主義の爲めに青年労働者の政治的大意識として  
發展せしめよ。  
革命的労働者を組織し、同盟工場細胞を、大陸間、東洋に組織  
せよ。  
労組幹部との共斗から、労働者大眾への働きかけへ。  
多數着地得るために、統一試験成績の正しさに適用に留意するなど  
ともに、全力をあげて、大陸へ。  
(2) 同盟中央書記局は、都を中心とし、春三指導体制を施して  
地方若井閣、同賀等も活動を開始していふが、全同盟は春三  
において全力をあげ活動をすすめる。春三斗争として  
階級的前進部隊として、全労働者階級の前に立ちあつたる最  
初の社会たらしめよ。